

平成 19 年（2007 年）の磐梯山の火山活動

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

6 月と 10 月に振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が観測されましたが、地震活動、噴気活動は低調な状態で、火山活動は静穏に経過しました。

○ 2007 年の活動概況

・地震や微動の発生状況（図 3～4）

6 月に振幅の小さい火山性地震が一時的にやや増加しましたが、その後の地震活動、噴気活動等に変化はありませんでした。

6 月と 10 月に振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が観測されましたが、その後の地震活動、噴気活動は低調な状態経過し、地殻変動観測でも特段の変化は認められませんでした。

・噴気など表面現象の状況（図 2、図 5～6）

裏磐梯（山頂の北約 7 km）に設置してある遠望カメラでは、山体北側火口壁の噴気の高さは 100m 以下で、噴気活動は低調な状態が続いています。

10 月 17 日、24 日に山体北側火口壁噴気地帯及び沼の平の現地調査を実施しました。赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布及びサーミスタ温度計²⁾による噴気温度等の観測結果は、前回（2006 年 10 月）と比較して変化はなく落ち着いた状態でした。

・地殻変動の状況（図 7～8）

山体周辺で行っている GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は観測されませんでした。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2) サーミスタ温度計は、半導体の電気抵抗が温度変化する性質を利用して温度を測定する測器。

○ 2007 年の噴火予報及び噴火警報の発表状況

発表日時	噴火警報または噴火予報	活動状況及び予報警報事項
12 月 1 日 10 時 20 分	噴火予報（平常）	火山活動はこれまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られない。

注）平成 19 年 12 月 1 日より噴火警報及び噴火予報の発表を開始し、それに伴い従来の緊急火山情報、臨時火山情報及び火山観測情報は廃止しました。

この資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.sendai-jma.go.jp/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

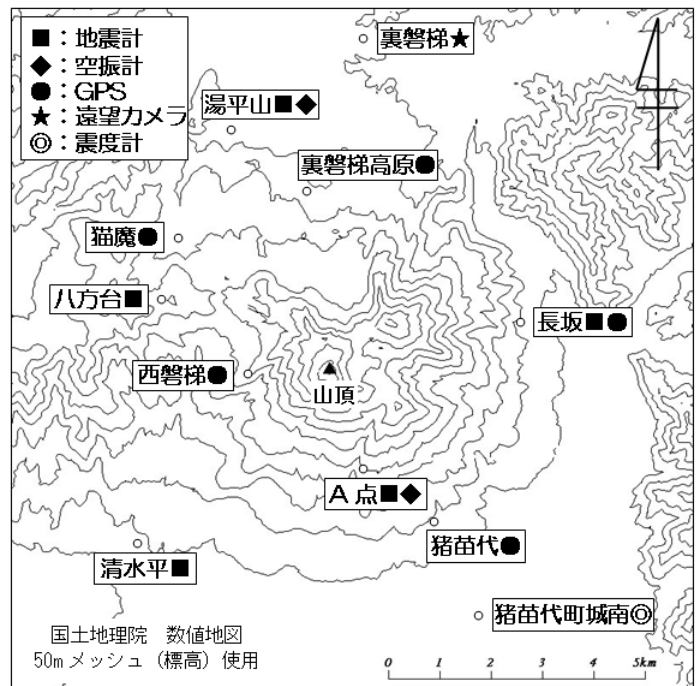


図 1 磐梯山 観測点配置図

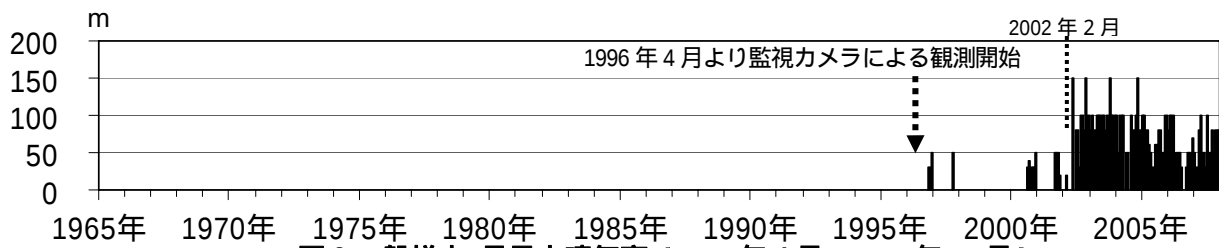


図2 磐梯山 月最大噴気高 (1996 年 4 月 ~ 2007 年 12 月)

2002 年 2 月以前は定時(09 時, 15 時)及び随時観測による高さです。
2002 年 2 月以後は全ての時間を収録データから観測した高さです。

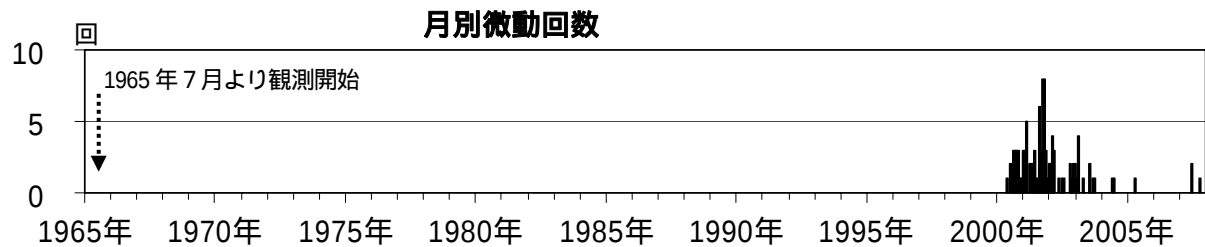
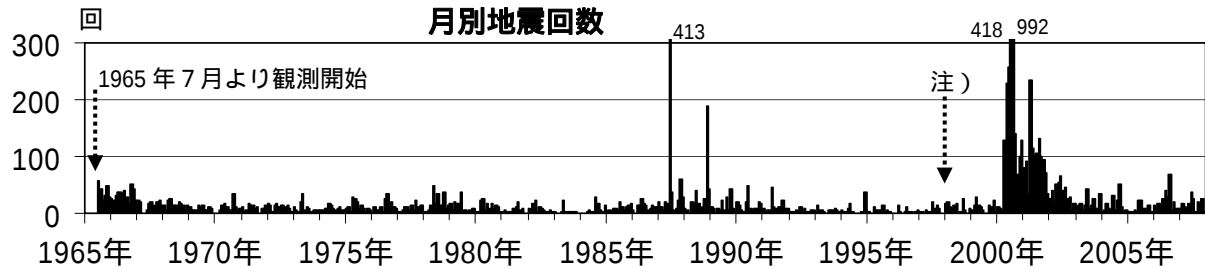


図3 磐梯山 月別地震回数、月別微動回数(1965 年 7 月 ~ 2007 年 12 月)

注) 1998 年より検測基準を S-P 5 秒以下から S-P 2 秒以下に変更しました。

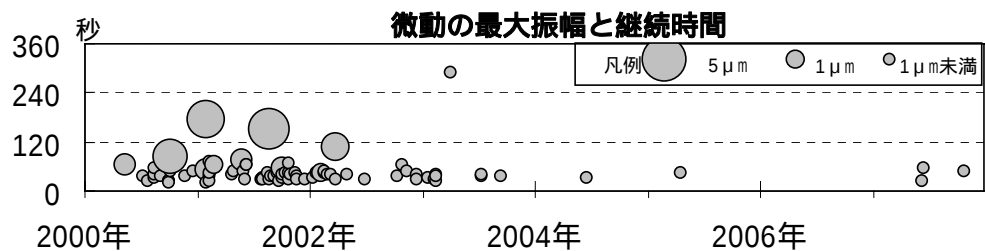
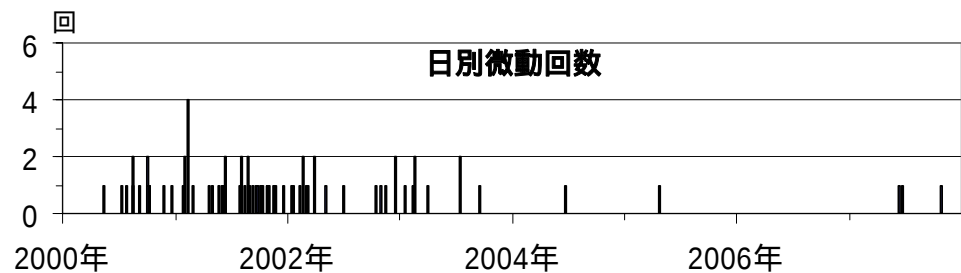
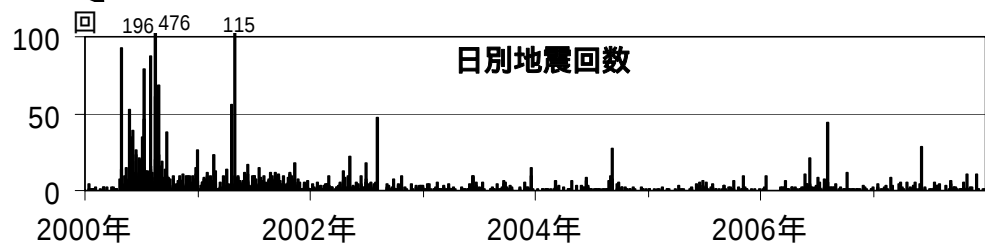
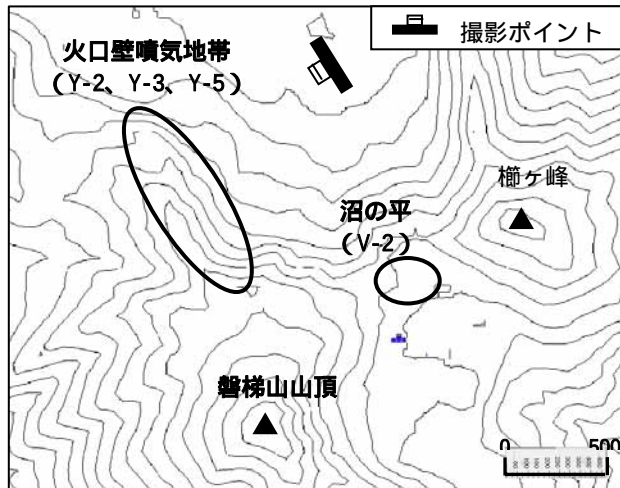


図4 磐梯山 日別地震回数、日別微動回数、微動の振幅と継続時間
(2000 年 1 月 ~ 2007 年 12 月)



赤外熱映像観測点図

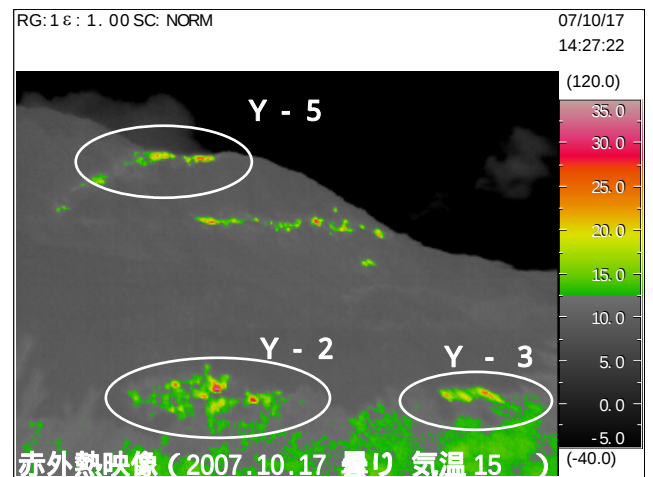
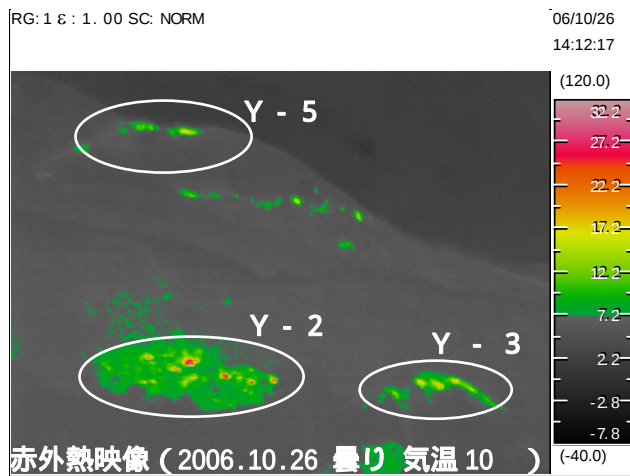


図 5 山体北側火口壁噴気地帯 (Y-2、Y-3、Y-5) の可視画像と赤外熱映像

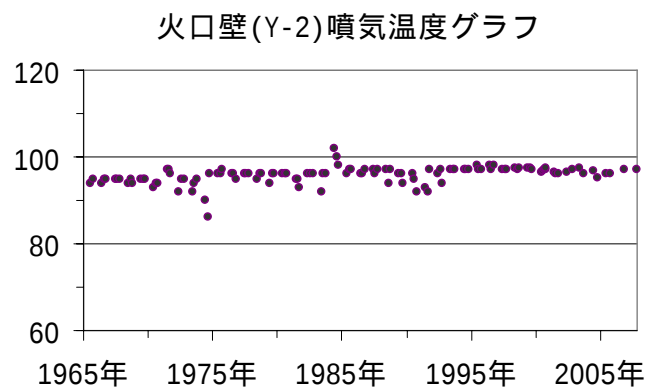
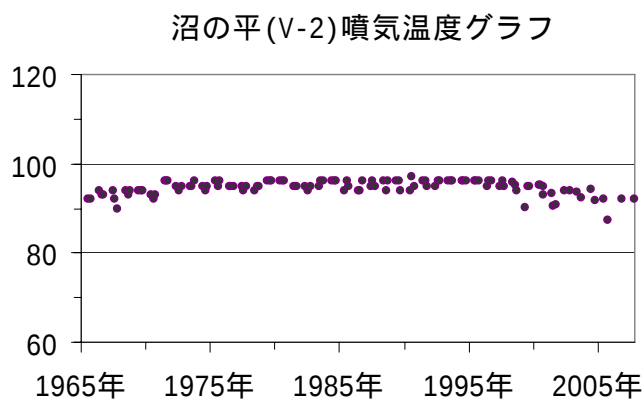


図 6 沼の平 (左: V-2) と火口壁 (右: Y-2) の噴気温度²⁾変化(1965 年 7 月 ~ 2007 年 10 月)

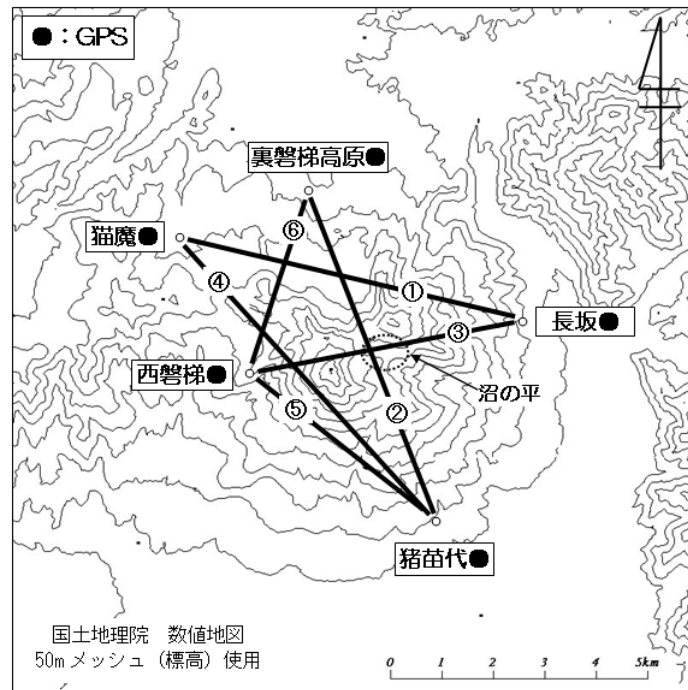


図 7 磐梯山 GPS 観測点配置図
GPS 基線 ~ は図 8 の ~ に対応しています。

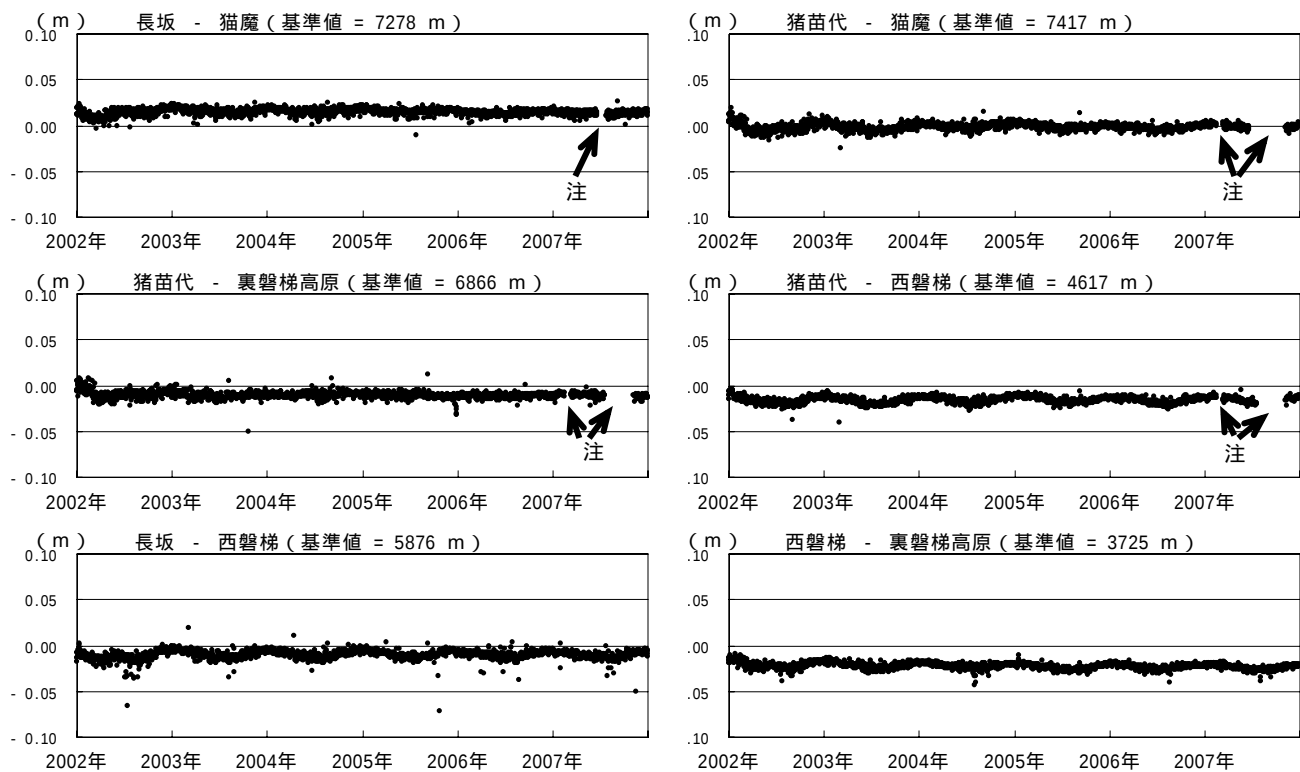


図 8 磐梯山 GPS 基線長変化図 (2002 年 1 月 ~ 2007 年 12 月)
~ は図 7 の GPS 基線 ~ に対応しています。
注) 猪苗代、猫魔観測点の不具合により、一部欠測があります。